

第2回総合計画審議会に係る意見と回答・対応

項目	資料	意見 (第2回審議会での意見等、 は意見提出シートによる意見等)	回答・対応
基本構想(骨子案)全体	・資料 1ほか	目次や各資料の項目では「上越市を取り巻く環境」というタイトルになっているが、実際に記述されている内容は取り巻くものではなくて、上越市自身の事柄が相当述べられている。	ご指摘の点のとおり、「序論 第3章 上越市を取り巻く情勢」において、目次(見出し)と記述内容の不整合を修正しました。
	・資料 3-1 ・3「直面する課題(分野別)」	3の「直面する課題(分野別)」の一番上に「不健康な人の増加」とある。高齢者だけでなく若い人の健康が心配である。保育園から小学校、中学校の状況を把握することが大切であることから、資料等あれば提示し、課題として追加いただきたい。	参考資料として配布した『「上越市の現状と課題」に関する主なデータ』の中に、客観性の高い数値として「市内小中学生の肥満傾向の推移」を掲載しました。
上越市を取り巻く情勢	・資料 3-2 ・6「地方分権の進展」	6の「地方分権の進展」の記載に国の18年度の財政状況があるが、上越市においても財政基盤がしっかりしていることが重要である。上越市の現状もこのような図で表すことができないか。	参考資料として配布した『「上越市の現状と課題」に関する主なデータ』の中に、財政のデータを掲載しました。
上越市の地勢・歴史	・資料 3-3 ・2「自然環境」	2の「自然環境」のところで、豪雪地の例として板倉の柄山の8mの話が出ているが、上越というのは都市として雪が降るといって非常に著名であり、都市の1つのテーマに成り得ることから、雪国都市のような捉え方ができないか。	「第2章 第1節 位置・地勢など」の中に、左記の視点に基づく記述を加えました。
	・資料 3-3	「上越市の歴史・特性」の認識において、広域的な視点が弱いのではないか。全国的なスケールで認められている上越市の特性の例(雪+都市+歴史 文化)のような広域的もしくは外からの視点は、資料3-5「多様性の再認識と活用」での共通テーマ設定においても重要になると考える。	「第2章 第1節 位置・地勢など」及び「序論 第3章 第3節 上越市の地域特性と潜在力」の中に、左記の視点に基づく記述を加えました。
	・資料 3-3	「上越市の歴史」において、地域がはぐくんできた文化に対する記述が少ないのが気かりである。特に小川未明や小林古径等に関する記述が一切ないのは問題ではないか。	「序論 第3章 第3節 上越市の地域特性と潜在力」の中に、左記の視点に基づく記述を加えました。
	・資料 3-4 ・7「体感治安の低下」	7の「体感治安の低下」について、近年の上越市の犯罪発生状況について、「犯罪件数自体は減っているが、犯罪の質が変化しつつあると言われている」との記載があるが、具体的に犯罪件数が市内でどのような状況なのか。犯罪の悪質化に対応しなければいけないという場合と、犯罪自体は減り安全になってきたが、人々の不安感が増しているという場合では、対応すべき課題が違うのではないか。 上越市が全国レベルに比べて安心ならば、「上越市は安全です」ということをアピールしつつ、「不安感が増している時代の状況にあるので、上越市はこんな対応を持ちます」という形がよいのではないか。そのためにも、全国レベルとの比較があればお願いしたい。	参考資料として配布した『「上越市の現状と課題」に関する主なデータ』の中に、犯罪認知件数の推移や国・県の状況と比較したデータを掲載しました。基本構想・基本計画の施策の検討においては、ご指摘の点に配慮していきます。
上越市のまちづくりの課題	・資料 3-4 ・8「地域の教育力低下、人材の育成」	8の「地域の教育力低下、人材の育成」の文中に、「高齢者の増加によってコミュニティを営む基盤が脆弱になった結果」とあるが、高齢者の増加によってコミュニティの基盤が脆弱になったとは考えにくい。例えば、家庭の教育力の低下。あるいは人間関係の希薄化ということが原因でコミュニティがだんだん壊れてきているのではないか。	「序論 第4章 第1節 上越市が直面する課題」の中で、ご指摘の点は削除しました。また、ご指摘の背景については、事務局も同様の認識であり、それに基づくまちづくり重点戦略等を検討していきます。
	・資料 3-4	資料3-4の最終ページ(p.14)の郊外の内容が気になる。「中心市街地の周辺部」との解説であるが、かなり幅があるのではないか。例えば、資料3-7「基盤をつくる 5」で「各地区の中心地」があるが、これはどのように位置づけられるのか。	「序論 第4章 第1節 上越市が直面する課題」の中では、「郊外」という言葉を用いないこととし、具体的には土地利用の検討の中で整理していきます。言葉の定義付けについては、今後も十分に意を用いていきます。
今後の取組方向	・資料 3-6 ・取組方向「教育・文化分野」	取組方向の教育・文化分野に「歴史・文化的資源の活用(新たな価値の創出)」と書いてあるが、これは非常によい単語だと思った。しかし、それが施策の大綱・体系図になると、あまり活かされていないのではないか。歴史・文化的資源の活用は、例えば「観光振興による外貨獲得」と「交流」など、まちづくり全部にリンクしてくる事業である。また、地産地消についても地域の特産品は十分に魅力的な観光資源になると思うが、素案では内向きの印象を持った。	ご指摘の視点は、まちづくり重点戦略に取り入れるべく、引き続き検討を加えていきます。
	・資料 3-6 ・取組方向「教育・文化分野」	地域がはぐくんできた良いものについてもっと自覚する必要がある。地域の歴史・文化を自覚する「あるもの探し」が、地域住民のアイデンティティを強固にし、また市外との交流・発信の根本となるからである。事務局案では、「歴史・文化的資源の活用」をうたっているが、具体的な内容については、極めて乏しいものとなっている。これは、自分たちの持っている良いものが自覚されていないためではないか。	ご指摘の点は、施策の大綱の中に記載するとともに、具体的・体系的な施策は基本計画の中で触れていく予定です。

		<p>「上越学」の提唱は大変結構であるが、内容が限定的にすぎると思う。地域内の学校にとどまらず、全国、あるいは世界への発信を見据えて良いと思う。実際に町屋学習には、県外の子供達に来ており、社会人対象の講座、勉強会もその中に含むことが必要である。</p> <p>小川未明・小林古径（それぞれ記念館や資料館がある）、酒（坂口記念館など）、温泉、雁木、町屋、榊原家関係など地域の歴史・文化を語る資料群、前島密、春日山、脇野田駅前の国史跡の候補となるような遺跡、朝市等々、住民の誇りとなる、あるいはアイデンティティーを形成する良いものを活かす方向を明確に出して頂くことを希望する。地域の共有財産の自覚は、市外との交流に直結する。他地域の人々は、当該地域の人々が良いと思ったものを見に来るためである。それらの人々はまた、地域の外から上越地域の支援者になってくれると考える。</p>	<p>ご指摘の視点は、まちづくり重点戦略に取り入れるべく、引き続き検討を加えていきます。具体的施策は、基本計画の中で触れていきたいと考えています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 資料 3-6 取組方向「教育・文化分野」 	<p>「教育・文化分野」の記述について、線の細い抽象的な言葉になっていると感じた。資料では、学校教育が中心に書かれているが、教育は学校教育だけではなく、全市民が生涯学習に参加したり、地域のコミュニティづくりに意欲的に学習参加することが大切である。人口が減少する中、地域やコミュニティを単なる経済的な1つの仕組みの中で構成するのではなく、住民の学習力をつけることによって、地域コミュニティの現状を打開していくことも重要な課題である。</p> <p>先般「安全安心まちづくりの条例」が制定されたが、この条例の戦略と総合計画をどのように関連付けているのか。条例の中身がこういう中に本当に活かされているのかどうか。</p>	<p>まちづくり重点戦略の検討の中で、ご指摘の点を含めた検討を進めていきます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 資料 3-6 取組方向「生活・環境分野」 	<p>「生活・環境分野」について、課題に「公害・ごみの適正な処理」「環境負荷の削減（予防型）」と書かれているが、もっと緊迫感を感じなくてはいけないくらい市民の間近に近づいている問題だと思っている。3R。リデュース、リユース、リサイクルの活動を市民挙げて参加できるようなものを織り込んでみてはどうか。</p>	<p>ご指摘の点を踏まえて、基本構想の中で方向性に触れつつ、具体的施策は基本計画の中で検討していきたいと考えています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 資料 3-6 取組方向「都市整備」 	<p>分野別取り組み方向での「都市整備」において、「各地区のテーマに則った…」とある。ここでの「テーマ」は、上記資料3-5の共通テーマにおける「テーマ」とは意味が異なると思うが、どのように違うのか。両者は関連するのか、しないのか。ここでの「テーマ」の語は適切なのか、など検討を要するのではないか。</p>	<p>「各地区のテーマ」とは、地域づくりの方向性を意味するものでありますが、事務局側の意図が容易に理解していただけるように、言葉の定義付けについては、引き続き留意してまいります。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 資料 3-6 	<p>人口減少の問題、かつ深刻なのは若年層が抜けているという問題である。この問題に対して、どう取り組むかという視点があまり見えていない。人口減少は一番深刻な問題であり、これは地域間競争である。上越の魅力を考えた場合、今いる若い人達が学校を出た後、戻って住みたいと思うまちをどうやって作っていくか。その視点をもう一度考えていただきたい。</p>	<p>ご指摘の点は、事務局においても課題と認識としており、具体的な施策については、基本計画の中に織り込んでいきたいと考えています。</p> <p>一方、人口減少社会の中でいかに持続可能な地域を構築していくかという視点も必要であることから、「攻め」と「守り」のバランスの取れた計画を目指していきます。</p>
まちづくり重点戦略	<ul style="list-style-type: none"> 資料 3-7 	<p>人口減少という点で見ると、まさに高校卒業した時点で大量に減っている。やはり上越には学校が少ない。4年制の大学も必要であるが、専門学校が少ないため、近場の新潟市、あるいは関東、関西に大量に子供達が出て行き、一度出てしまつとなかなか戻ってこない現状がある。若者を引き留める教育の場が必要である。</p> <p>団塊世代の人たちが大量にいて、都会の人たちが田舎を求めているという声も聞かれる。現に山間地域のほうでは、安塚区など古屋を提供している例がある。それをいち早く上越市が安い価格で住みよい場所だということをPRして、県外の方からたくさん入ってもらい、地元の子供たちとの交流を深め、知恵を吸収していけば素敵なまちになるのではないかと考える。</p>	<p>ご指摘の点を踏まえて、各種政策の検討を進めていきます。</p>
将来人口推計	<ul style="list-style-type: none"> 資料 4 	<p>目標値での計画は、目標未達の場合の影響が多岐であることから、あくまで推計値を用いるべきである。但し、目標値を掲げ、その達成のために政策立案することは重要である。</p>	<p>ご指摘の視点を含めた今後の方向性について第3回審議会の中で議論を予定しています。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> その他 	<p>高齢化と人口が減少する傾向は資料で分かるが、その中に経済関係の資料がほしい。やはり働く場所がない。法人税など税収が減少し、借金も重なってくる。市民の生活と経済の安定性、上越は豊かなまちであるための条件など経済の面も市民に分かりやすく出してほしい。</p>	<p>参考資料として配布した『「上越市の現状と課題」に関する主なデータ』の中に、産業経済関係のデータを取りまとめました。</p>